

意見交換

意見交換会では、笠原さんから八千浦地区の環境について、そして、大滝さんから北陸新幹線の進捗と合併による新市名について、市への質問がありました。

八千浦地区の環境について

笠原さん Jネットの会員で関東八千浦会の会長の笠原です。今日、時間がありましたら私が書いて参りました（文章を、読ませていただきたいと思います）が、時間がないので、あとで助役さんと市長さん宛て、あるいは三浦さん宛てにお渡ししておきたいと思います。

いずれにしましても、誇れる上越市を作っていく上で、皆さんご存知ないと思いますけど、八千浦地区の黒井・荒浜にまたがる工場残渣の跡が無残な様相を呈しています。私どもの意見を書いてあり

ますので、よろしくお願いしたいと思えます。

森の中にいると森が見えないんですね。森の外にいと初めて森の全体が見えてくるんです。美しい町、誇れる故郷、ということも盛んに木浦市長さんのお話にもありましたけれど、今の八千浦のあの無残な姿では、誇れる上越市とは言えません、ひとつよろしく願いたいと思います。以上です。



三浦課長 それでは後ほど私のほうで受け取りさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願います。

北陸新幹線の進捗と合併による新市名について

大滝さん 大手町出身の大滝でございます。去年も木浦市長にお答えいただいたんですけれども、私ども故郷から出て来て、現在東京近辺に居る訳ですけれども、

一番の関心事は、やはり北陸新幹線の工事の進捗状況です。それから開通の目途ですね。その辺の話はやはり是非、助役さんからいただきたいなと思います。今年もなにもなかったものですから、また同じ質問をさせていただきます。

それからもうひとつ、十四市町村の合併の話がありました。来年一月一日ということ、知っておりますけれども、名前などはどうなんでしょうか。ほは目途はついていないでしょうか。その辺もひとつ是非お聞かせいただければと思います。

北陸新幹線の進捗状況は…

三浦課長 それでは整備新幹線のほうにつきましては私のほうから、合併につきましては部長のほうから説明をさせていただきます。

ただきます。

新幹線につきましては、最近皆様も新聞等でご覧になっているかと思えます。特に北陸新幹線につきましては、平成十二年の段階では、十三年の着工から十二年強後ということで、平成二十五年というのが今、目標になっております。これが今、国のほうで見直しをしているところでございます。最近の情報によりまして、たとえば二年ほど前倒しになるのではないかというようなお話も出ております。

いずれにしろ、多額の財源が重要な問題になっておりますので、今年度、これから五月、六月の中で、ある程度方向性が出るのではないかとということで、我々も今、情報収集に努めておりますし、また、早期に開業するような形の中で、積極的な運動を進めているということでございます。

いづれにしても段階では平成二十五年頃の開業ということ、こちらの方としては承知をしているということでございます。

合併による新市名について

高橋部長 続きまして合併の関係で、新市の名称でございますが、合併協議では基本的に新市の名称は議題が上がって

ません。これは何故かといいますが、編入合併でございますので、上越市に周りの町村が編入するというところでございますので、上越市はそのまま残るということでございます。

合併を期して新市の名称を替えるというのではないというのが、まず原則でございます。ただ、上越市の名称を替えられるのは、上越市だけでございますので、あくまで、これは上越市の問題であるというところで合併協議とは切り離して考えております。従いまして今の段階で市の名称を替えるという段階には至っていないということでございます。

太田会長 よろしゅうございますか。今



の答えで、時間的に迫ってまいりましたので、あとは懇親会のほうで如何でしょうか。

どうもありがとうございます。

【参考】

関東八千浦会会長 等原宇美男さんからJネットの総会で市の方へ文書が手渡され、市の方からはこの文書に對し回答を頂きました。

◆文書の要旨

平成十六年四月十日、十一日、関東八千浦会では「ふるさと訪問ふれあい懇親会」を企画し、翌日、八千浦地区の沿岸を視察しました。

黒井、荒浜地区のN社敷地内の耐熱煉瓦材料の粉塵・残渣による、自然環境の荒廃に愕然としました。私たちは、いたずらに失われた八千浦の自然をセンチメンタルに懐かしんでいるのでなく、自然保護と工業化がいかに両立し経済の成長をもたらし、人類の成長に寄与するかに大きな関心を持っています。

今後、関東八千浦会の目標の一つに「八千浦沿岸自然再生」と定め、様々な運動を展開していきます。

◆文書に對する市の回答

上越市でも、当該地区の状況は把握しており、これまでも副産消石灰の利用については、N社及び県、市の内部において検討してまいりました。

N社では、「直江津港湾荒浜ふ頭地区公有水面埋立事業」により、残渣を埋立材料として利用することについて県と検討しているところです。ただし、経済状況により埋立事業も遅れる予定ですが、市といたしましても県に強く、その利用を働きかけてまいります。

また、平成十三年度に市と地元がまとめた「八千浦地区環境整備構想策定調査報告書」について、N社へも説明し、協力する旨の回答を得ており、今後、行政・地元・企業により、協力してふるさととの環境整備を図ってまいります。いずれにしても皆様の活動とも連携しながら、ふるさととの発展を推進してまいりますので、ご協力をお願い申し上げます。

